

科目分類	看護専門科目 応用看護	開講時期	4年	前期		
科目名	地域看護管理実習					
選択/必修	選択	単位数(時間数)	2単位	90時間	授業形態	実習
担当教員	鈴木 隆史					
メールアドレス	t-suzuki@tsuruga-nu.ac.jp	オフィスアワー	授業の前後			

授業目的	<p>本実習では、地域看護学実習Ⅰ・Ⅱを基盤にして、住民の健康ニーズに沿った地区活動の体験を通して学習する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.他職種や住民と協力して、地域の健康の向上を目指した健康課題の方策を作成することの重要性を理解する 2.住民が主体的に健康課題に取り組むことができるように、住民のパートナーとして活動することの重要性を理解する 3.保健師活動がPDCAサイクルに基づいて行われていることを理解する 4.地域看護活動に求められる保健師の役割を考える
授業概要	<p>地域看護学実習Ⅰ・Ⅱを基盤にして、地域課題を設定する。活動計画を作成し、住民の健康ニーズに沿った地区活動の展開から評価に至る一連のプロセスを体験して学ぶ。</p>
授業計画	<p>事前学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ地区診断について整理する。 2. 地域看護学実習Ⅰ・Ⅱで見学した家庭訪問や健康教育・健康相談の展開方法について復習しておく。 <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域健康課題に基づいて、地域看護管理実習の活動計画を教員・指導者の下で作成する。 2. 保健師が行う保健事業に参画する。 3. インタビューを行い、得られた内容から住民の健康と保健事業に対する意識を考察する。 4. 家庭訪問をするにあたっては、ねらいを定め、実施後は今後の方向性について検討する。 5. 健康教育・健康相談については、計画・実施・評価を行う。 6. 報告会にて実習での学びを共有する。 7. 今後の地域看護活動における保健師の役割を考察する。

教材 参考文献等	授業で用いた教科書と講義資料 その他、適宜紹介する
成績評価 基準・方法	出席状況、実習内容、実習記録、実習態度などから総合的に評価する
履修要件	地域看護学実習Ⅰ・Ⅱを履修していること。
留意事項 その他	<p>住民を対象に、学生が主体的に立案した地域看護活動の計画から評価に至る過程を体験するので、真摯な態度が要求される。住民に不利益をもたらすことは許されない。</p> <p>臨地実習では五感をフルに活用して得た情報を、学内での学習と関連させて学びを深めること。</p>
実務経験のある 教員の教育方法	<p>保健師としての地域の健康課題への取り組み、個人や集団への地域保健活動、地区組織活動の経験を活かして、地区活動の展開、保健事業の企画・実施・評価について実習指導を行う。</p>